

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

① テーマ「5年1組 作ろう！ぼくらの米物語！」

② ねらい

日本人にとって「米」は食事に欠かせない主食である。普段何気なく食べている米を自らの手で育て食べることを通して、“お米の良さ”“食べることのへの感謝”“作り手の思いや願い”を感じ取り、お米を食べる文化を大切にする心を育てる。また、米づくりを窓口にして、日本の伝統的な食文化を探求することで「和食」への関心を高める。

③ 年間計画

4～5月	田植えをしよう	1月	収穫したお米を食べよう
6月	草取りと肥料やりをしよう	2月	お家の人にぼくらの活動と収穫したお米のおいしさを伝えよう
	年間計画を立てよう		
7月	ネットかけをしよう		
8月	水位の調整をしてあげよう		
9月	草取りと空気抜きをしよう		
10月	収穫をしよう	3月	ぼくらの米物語を完成させよう
11月	脱穀、精米をしよう		
12月	わからないリースをつくろう		
			1年間の活動を振り返ろう

④ 実践内容

年度始めに学級で米や和食についてのアンケートを実施したところ、朝食にご飯を食べる児童は36%で、米づくりの経験がある児童は皆無であった。日本の大事な主食である「米」との関わりを増やし関心を高めていきたいという思いを持って活動をスタートした。また、和食が好きと答えた児童は7%、作ったことがある児童は33%であり、米づくりを通して和食文化を大切にする心を育みたいと考えた。

まず、地域の稲作体験ボランティア（水がき隊）の方々に米の作り方を地域にある水田で実際に伝授してもらい、その経験を活かして自分たちの力で学校に田んぼを作り、米づくりを進めていった。水がき隊の方々と育てている田んぼとは違い、学校の田んぼの土は固く、育てた稲は病気になったり、元気が無くなったりした。その度に、どうしたら稲が元気に育つかを調べたり、水がき隊の方に教えてもらったりしながら困難を乗り越えてきた。

また、米づくりを進めるにあたっては、「計画→企画→実践→振り返り→次の活動を考える」というサイクルを大事にし、米づくりに必用な活動をグループごとに責任を持って担当することとした。各グループは活動を引っ張るリーダーを務め、子どもたちが調べたことや計画したことを基にして活動を進めていった。そのことによって、各グループが責任を持つとともに、主体的な活動に繋がった。





収穫した米は鍋で炊いて食べた。子どもたちから「おいしい!」「想像以上!」という声が多数聞こえた。鍋で炊いておこげができたりましたが、それもおいしそうに食べていた。



収穫したお米をおいしく食べた後は、お米に合う料理を調べていった。調べていくとお米にはやはり「和食」が合うことがわかった。「和食」のひみつについて調べ、自分たちで和食を作ってお米と食べることにした。和食の特徴や調味料、調理方法やマナーなどを調べ、実際に料理を作ったりマナー良く食事をしたりした。活動後の子どもたちの感想に「いただきますの意味が分かった」「和食をもっと食べようと思う」等があり、和食に対して良いイメージを持つようになったことがわかった。

⑤ 実践の成果と課題

- 自分たちの手で栄養の無い固い土を耕すところから育てたお米を食べていくという活動の中で、稲が病気になったり、脱穀や精米をしないとお米を食べることができなかつたりと目の前にある課題が明確であった。そのため、児童がはっきりと課題意識を持つことができ、主体的に活動することができた。
- 自力で米づくりをすることで、実感を持って学ぶことができた。
- 米づくりの活動を通して学年、保護者、地域の方と交流ができた。様々な方との関わりの中で学ぶことができた。
- 今回の活動では、米づくりでの学びが主となり、和食の学びの広がりが少なかった。もう少し和食に主眼を置き、日本の食文化を深く探求することができればより良い学びになったと考えられる。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）